

2022年5月28日

## 2021年度 学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校法人武蔵野東学園  
武蔵野東第一幼稚園  
武蔵野東第二幼稚園  
報告者 園長 加藤 篤彦

### 1. 本校の教育目標

「みんななかよし すなおなこころ こんきのよさ」

### 2. 本年度の重点目標

1) 「深い学びを支える視点からの環境の整備」(2年次)

その他の重点的な取組事項

- 2) 預かり保育 18時までの延長
- 3) 預かり保育の充実やコロナ禍での衛生管理のための第二幼稚園リニューアル工事
- 4) 新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した行事の工夫

### 3. 重点目標についてのそれぞれの取組状況や評価

- 1) ・取り組みの2年目として本園の考える「深い学び」についてまとめたものを教職員で共有し、共通理解したうえで、その学びを促す視点からの環境構成と教師の援助について意識を高めて取り組んでいくことにした。
  - ・学年を一研究部として「深い学びを支える視点からの環境の用意と教師の援助」について期ごとにワーク会議を行い、実践をまとめた。
  - ・ワーク会議の取り組み(下記①～③)を2か月ごとに実施。
    - 年齢ごと、期ごとの深い学びに繋がる環境の用意と教師の援助についてまとめ、3学年の会議のまとめを表にして、全教職員、保護者と共有。
      - ①盛り上がり続いたり広がったり深まったりした遊びの画像を出し合い、場面の中の環境の用意と教師の援助について付箋に書き出す。
      - ②「環境の用意」と「教師の援助」について付箋をカテゴライズしていく。
      - ③深い学びに繋がる遊びを支える「環境の用意」と「教師の援助」について、時期ごとに共通しているものをまとめ共有する。
  - ・教育重点に関わる上記の取り組みは、年度末に幼稚園実践研究部として学年ごとに動画・ポスター発表。保護者と共有するようにした。
- 2) ・第一幼稚園、第二幼稚園それぞれに18時までの預かり保育を実施し、その環境についても考え工夫できた。例えば、温かみのあるクッションや座布団を用意したり、ラグなどを敷いたりし

て、夕方疲れが見られる時間にゆったりと過ごせるように配慮もしている。

- 3)・園舎改修工事においては、第二幼稚園の玄関ロビーと職員室、保健室を一体的なつながりで結び、十分な換気ができる環境となり、また安全確保が容易にできる環境となった。(職員室、ロビー、廊下、園庭からの見通しが良くなると共に、園児は保健室へアクセスしやすくなった。)
- 4)・コロナ禍においても工夫して行事運営を行うことができた。

具体的には行事は三密を回避し分散で実施した。また行事においても学園で契約した有料 Zoom を利用してライブ配信を行った。保護者のみならず、遠方の祖父母にもご覧いただけるようにできた。

#### 4. 総合的な評価と今後の課題

- ・コロナ禍にあっても、感染予防をしつつ保育実践や大きな園行事は推進できた。
- ・行事や保護者への幼児教育実践の説明などではさらに ICT の活用が進んだ。
- ・コロナ禍における保育の取り組みや諸行事の工夫について、ICT の有効性が確認できたものについては、今後も取り組みを継続していく。
- ・保護者の活動、後援会(父の会・レッツ、サークル活動)については、園での直接の活動が制限されていたことから ICT を活用した運営をしていただいた。一方、今までやっていたことができなくなったことで、活動の継承が難しい状況が続いている。対面での活動は、保護者同士のつながりのために大切であるので、今後も工夫をする必要がある。また、ICT での活用で済むこと、来園いただくことで効果が上がることなど、それぞれの特性を生かした保護者とのかかわりを定着させていく。
- ・末松文部科学大臣がインクルーシブ教育の先駆的な実践園として視察いただけたことは、取り組みに一定の評価をいただけたものと考ええる。
- ・出生児数の減少と保育所の増加にともない、年少3年保育の入園児数が2年間に減少したことを受けて、令和4年度から学齢3歳児保育と満2歳児保育が実施できるように準備を進めた。この園児募集については、大変に好評であり用意した募集人数をすぐに充足できた。
- ・預かり保育のニーズが増加していることを受けて、18時までの実施ができた。また、長時間にわたり幼稚園で過ごす環境の充実は、園舎工事レベル、教具レベル、教員の配置増というそれぞれの側面から充実をはかることができた。

#### 5. 学校関係者評価

##### A. 保護者代表からの評価

- ・コロナ禍での園の取り組みを総合的に評価する。
- ・保護者同士のクラスでの交流に課題(遠足の中止は残念であった)コロナ禍でも交流を持てる機会を工夫できればよかった。(公園遊び、サークルなどの機会が大切であると再認識した。)
- ・2022年度にスタートする満3歳児保育や学齢2歳児の保育には、保護者の中で期待する声は多い。

- ・園児募集については、武蔵野東の良さをアピールできると良い。  
具体的には混合教育については有名だが、混合教育と同等に、健常児教育への質の高い保育が行われていることをアピールできるとよい。また、武蔵野東では、様々な経験を通して目に見えにくい心の成長などを学べる良さがある。実際に通っていると実感できるが、特徴を聞かれたときに言葉だけでどう伝えられるのか難しかった。未就園保育や行事を通して、良さを実感いただけるようになるとよい。
- ・コロナ感染の拡大により、預かり保育の利用制限がかかり、スポットの方が利用しづらくなった。就労以外の方も預かり保育が利用できる環境がほしい。  
→(園長より)ご事情がある場合には利用いただいて構わないのだが、困ったときに保護者が遠慮されないように工夫したい。

## B. その他の学校関係者からの評価

- ・「探求」は今注目されている取り組みである。探求する力というのは上級校へ進んだ先でその成果を評価されるものである。問題を見つける、それを定義する、解決方法を探るといった一連のものを身につける上で、幼・小・中と一貫して繰り返し取り組んでいてはどうであろうか。ある意味、受け取る側である高校・大学に進んだ先に還元するつもりで指導して欲しい。きっと、長い目で見て、他の学校にはない差のつく取り組みになるのではないかと期待している。
- ・保護者から、教職員の努力を評価する声があった。これこそが学園の特徴であり、コロナ禍であっても常に工夫・努力されていることが保護者にしっかり伝わっていることは、素晴らしいことである。
- ・コロナ禍の中での学校活動において様々工夫されて良好な教育が行われていることが理解できた。市内において教職員の取り組みは優秀であると耳にしていたが、それを実感することができた。私学は建学の精神に則ってしっかりとした教育方針を示していただいたい。
- ・コロナ禍によって、内気な子どもが多くなる、体力低下につながるといった報道を耳にするが、武蔵野東ではそれを感じず、先生方の努力、周りにいる仲間の意識の高さによって、明るく元気に子どもたちは育っている。今後も引き続き SDGs への取り組みに力を入れ、将来を背負っていける子どもたちを育てて欲しい。
- ・各園校で実施している学校評価の書式は統一した方がのぞましい。
- ・各園校だけでなく、当学園のよさをどうアピールしていくかが重要と考える。
- ・コロナ禍によって、様々な行事を知らない子どもたちの経験不足をこれからどのように取り戻していくかが重要と考える。
- ・年少3年保育の入園児数が減少したことを受けて、早期に学齢3歳児保育と満2歳児保育が実施できるようにしたことは大変良かった。